

発刊にあたり(2)

11年ぶりの改訂版は、時代進化分の改廃と、将来技術を可能な限り織り込んで、この先長く使って頂けるように工夫して執筆しました。

従来の記載内容に加え、将来戦略と革新技術が益々重要な時代に配慮し、取り巻く諸情勢の将来予測を紹介しました。また期待を超える商品を継続的に提供するために取組まれるプラットフォーム戦略・モジュール戦略にも触れました。さらに昨今とりわけ進化の著しい安全・環境・快適技術に関する基本原理や技術をより詳細に追加することにしました。

安全領域では、衝突時の乗員保護性能が飛躍的に向上し、更に歩行者や二輪車に対する傷害低減技術、夜間や複雑な道路事情での事故回避技術など、あらゆる視点での死傷者低減技術の開発が進められています。

環境領域では、HVは普及期に入り、更に電動化を進めたPHV・EV・FCVが拡大し始めていますし、軽量化や空力制御といった走行抵抗低減技術が加速しています。

また装備領域では、センシング・情報処理・通信技術の進化が著しく、自動ブレーキや車線逸脱回避といった運転支援や、認知・操作を快適にするユーザーインターフェース関連の技術、自動運転に向けた技術が加速しています。この様に、高度・複雑化する各技術と共に、車体構造の重要性は一段と高まっています。将来を見据えた革新技術の開発や車体設計を一段と精力的に取り組まなくてはなりません。

本書は自動車メーカ各社の専門家で議論を重ね、出来るだけ分かりやすく編集する事にも配慮しました。次世代を担う技術者や学生の方々の一助になれば幸いです。

最後に本書発刊にあたり、多大なるご協力を頂いた委員の皆様、各分野の最前線でご活躍の執筆者の方々にあらためて深く感謝し御礼申し上げます。

2016年5月

設計(デザイン・車体)編 編集委員会

委員長 岩本 宏明